

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市将監児童館
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3 指定期間	平成28年4月1日から令和3年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 15,296 人 (前年度比 60.7 %) 令和元年度 25,220人 平成30年度 24,556人 平成29年度 25,709人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 38,331千円 (32,094千円) ・ その他市が負担した費用 千円 (千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 千円 (千円) ・ その他収入 千円 (千円)
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシートで確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、昨年度より、コロナ禍のために縮小しているが乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>「自分の気持ちを表現しながら様々な人々と交流し、地域の中に過ごしやすい居場所を広げられるよう支援する児童館」を重点目標に掲げ、日々の館運営に取り組んでいます。地域の特徴としては、各種公園や公共施設が整っており緑豊かな地域です。一方では、地域全体が少子高齢化の傾向にあり、児童数は緩やかに減少していますが、共働きの家庭が増え児童クラブの利用割合は、徐々に増加傾向にあります。</p> <p>「児童健全育成事業」では、カレンダー作りやバランスボールの行事を子育て支援クラブと共催で実施しています。</p> <p>「子育て家庭支援事業」では、隣接のコスモス将監保育園や併設のサンホームと連携した行事及び子育て相談の機会を設けています。さらに地域の外部講師を招き、親子タヒチアンダンスや造形遊びを実施したり、子育て支援クラブ、人形劇サークル、読み聞かせボランティアとの共催行事(かっさー広場など)を実施したりして親子のふれあいと癒しの時間を確保しています。</p> <p>「地域交流推進事業」では、将監地域全体を視野に入れて将監児童センター、将監西児童館と3館協力してドキドキタイム(幼児親子行事)の企画や昔遊びなどの行事を通して、地域の方々と交流するなど魅力ある活動を積極的に行っています。また、市民センターの企画行事を館日よりポスター掲示により広報するなどして連携しています。</p> <p>「放課後健全育成事業」では、自分の思いや考えを相手に伝えられるよう、4月のオリエンテーションをはじめ毎日の帰りの会等を活用して様々な言葉遊びや読み聞かせなどを年間通して力を入れて実施しています。本年度の重点目標に迫れるよう取り組むことによって、子どもたちにコミュニケーション能力が徐々に身に付きつつあります。また、児童クラブ説明会とプチ体験会を同時に開催し、児童館をより知ってもらい次年度も子どもたちがスムーズに利用できるように配慮してまいります。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>健全育成事業においては、将監児童センターと連携して「昔遊びを楽しもう」を開催し、1か所で行うのではなく館ごとに昔遊びの内容を決めて募集するなど、コロナ禍での配慮をしながら無理なく地域の子どもと交流ができる新しい連携の工夫が図られている。他にも子育て支援クラブと共催した「カレンダー作り」や「バランスボール」など多彩なプログラムを提供し、地域との交流を広げ子どもの豊かな心身の発達を促し自ら学び考える力を育てている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、幼児クラブをはじめ「びよびよタイム」「にこにこタイム」など年齢ごとに月1回行事を開催し、ベビーマッサージや季節の親子遊び、母親のリフレッシュや交流、工作などタイムごとのねらいにそった遊びや活動を提供している。将監3館連携行事として開催した「ハロウィンウィーク」は、お知らせを3館一緒に掲載して内容と日日を別にして参加する館を選べる工夫をしている。他にも子育て支援クラブが工作など毎月独自の事業を主催するなど豊富なプログラムを提供している。このように地域住民との交流を広げる拠点としての役割を果たしつつ多様な取り組みで地域の子育て家庭を支援している。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、児童クラブの重点目標を「コミュニケーション能力の育成」として「楽しく言葉を知ろう」というテーマで帰りの会で職員が担当し、本の読み聞かせや言葉遊び、相手に伝わりやすい話し方など、子どもの話す力を育てている。子ども同士の関りで重要な言葉の発達を楽しみながら支援できるように職員全体で共有しながら行っており、評価できる。</p>	S

四 その他特記事項

(上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する)

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課